

第 18 回天気予報研究会議事次第

日時:2021 年 2 月 20 日(土)13 時 30 分～16 時 30 分

オンライン開催：参加方法などについては、

<https://peatix.com/event/1775888/view> をご覧ください。

(挨拶)

下山紀夫(一般社団法人日本気象予報士会) 13:30～13:35

(講演)

1. 「近年の風水害の教訓を踏まえた気象庁の取組について」
高橋賢一(気象庁大気海洋部気象リスク対策課) 13:35～14:05

2. 「近年の台風予測技術の改善」
笠原真吾(気象庁大気海洋部アジア太平洋気象防災センター) 14:05～14:35

3. 「台風研究最前線:①発生環境場診断研究:台風にも生まれつきがある?
②タイフーンショット計画:2050 年までに台風の「脅威」を「恵み」に！」
筆保弘徳(横浜国立大学) 14:35～15:05

休憩 14:50～15:00

4. 「2019 年台風第 19 号(令和元年東日本台風)と長野市長沼地区の千曲川堤防について」
田中章夫(日本気象予報士会長野支部) 15:15～15:45

5. 「台風被災地住民調査からみる防災情報発信の課題」
入江さやか(NHK 放送研究所) 15:45～16:15

質疑応答 16:15～16:30

主催：日本気象学会天気予報研究連絡会

第 18 回天気予報研究会講演要旨

講演

1. 「近年の風水害の教訓を踏まえた気象庁の取組について」

高橋賢一（気象庁大気海洋部気象リスク対策課）

気象庁の発表する様々な気象情報は、近年の風水害における様々な教訓を踏まえ毎年の様子に改善が図られてきている。特に平成 30 年 7 月豪雨において、気象庁は防災気象情報の段階的な発表、市町村への支援、さらには記者会見を通じて早い段階から厳重な警戒の呼びかけを行ったが、必ずしも住民の避難行動につながらず、甚大な水害や土砂災害が広域に発生し、平成に入り最大の人的被害をもたらす豪雨災害となったことを受けて「防災気象情報の伝え方に関する検討会」が立ち上がり、大雨が予想された場合に危機感が住民や社会に確実に伝わり、避難等の防災行動につながっていくための取組が進められている。ここでは検討会において提言された内容と、提言を踏まえて気象庁がこれまで、あるいはこれから改善を図る事項について紹介する。

2. 「近年の台風予測技術の改善」

笠原真吾（気象庁大気海洋部アジア太平洋気象防災センター）

気象庁は、台風の解析予報情報を、国内のみならずWMOの枠組みのもとアジア太平洋の各地域にも提供しており、日本を含む北西太平洋域の台風災害の防止・軽減に重要な役割を果たしており、常に情報の高度化、予報精度の向上に向けた取り組みを行ってきた。特に、平成 31 年 3 月には我が国におけるタイムラインを考慮した効果的な防災対応に資するよう強度予報を 3 日先までから 5 日先までに延長した。その後も、令和元年 6 月には進路予報の改善、令和 2 年 9 月には熱帯低気圧の予報の延長を実施した。

これら近年の台風情報の高度化を推進させた台風予測技術について、精度検証や個別の事例を紹介しながら解説する。

3. 「台風研究最前線：①発生環境場診断研究：台風にも生まれつきがある？

②タイフーンショット計画：2050 年までに台風の「脅威」を「恵み」に！」

筆保弘徳（横浜国立大学）

台風の発生には、その周囲の環境場がトリガーとなる。北西太平洋における台風発生環境場は 5 パターンに分類されると考えられていて、統計的研究によれば、そのパターンごとに発生する台風のその後の挙動や特徴も変わってくる。本講演前半では、気象庁にも導入された台風発生環境場診断手法 TGS やその研

究成果を紹介する。後半は、2050年という未来にむけて、人類は台風を制御し、さらに資源にまで変えてしまうプロジェクト「タイフーンショット計画～2050年までに台風の「脅威」を「恵み」に！～」も紹介する。

4. 「2019年台風第19号（令和元年東日本台風）と長野市長沼地区の千曲川堤防について」

田中章夫（日本気象予報士会長野支部）

台風接近に伴い、長野県内は大雨特別警報が出る大雨となり、長野市長沼地区では、千曲川の増水により、堤防が決壊して、同地区は甚大な被害を受けた。

被災者の願い・要望は、「①堤防を強く、②皆が納得できるような原因の説明、③改善策、④皆が安全に帰って生活できるように、⑤また住みたいと思えるように。」と聞く。

堤防への要望は、「①真直ぐな堤防、②河床を低く、③堤防のかさ上げ、④立ヶ花の拡幅、⑤桜づつみの再生。」と聞く。

破堤箇所は、氾濫原で基礎地盤は弱く、信玄が築城を命じた長沼城跡がある。破堤箇所は、城跡の北三日月堀跡にあたる。堤防は、平面形状が堤内地側への湾曲部であり、破堤の際、周囲の濁流を集めた可能性がある。最初の破堤は、破堤箇所の北端付近で発生、続いて南側の北三日月堀跡が開いたと考える。

長沼地区の1日も早い復旧・復興を願うものである。

5. 「台風被災地住民調査からみる防災情報発信の課題」

入江さやか（NHK放送研究所）

<要旨準備中>